

広がるトリ科学



国際鳥類内分泌学シンポジウムに向けて

＝⑫＝

岐阜市で6月 市民公開講座

市民公開講座「広がるトリ科学の世界」(岐阜新聞・岐阜放送後援)は6月7日午後4時から、岐阜市長良福光の長良川国際会議場で。対象は高校生、一般。参加費無料。

ニワトリの卵殻で ウズラ種卵をヒナにする



小野珠乙教授

ウズラやニワトリの生命は、母親の卵巣から排卵されて、すぐに卵管内で精子と受精して始まります。数時間かけてこの卵黄に卵白や薄い卵殻膜が付着します。

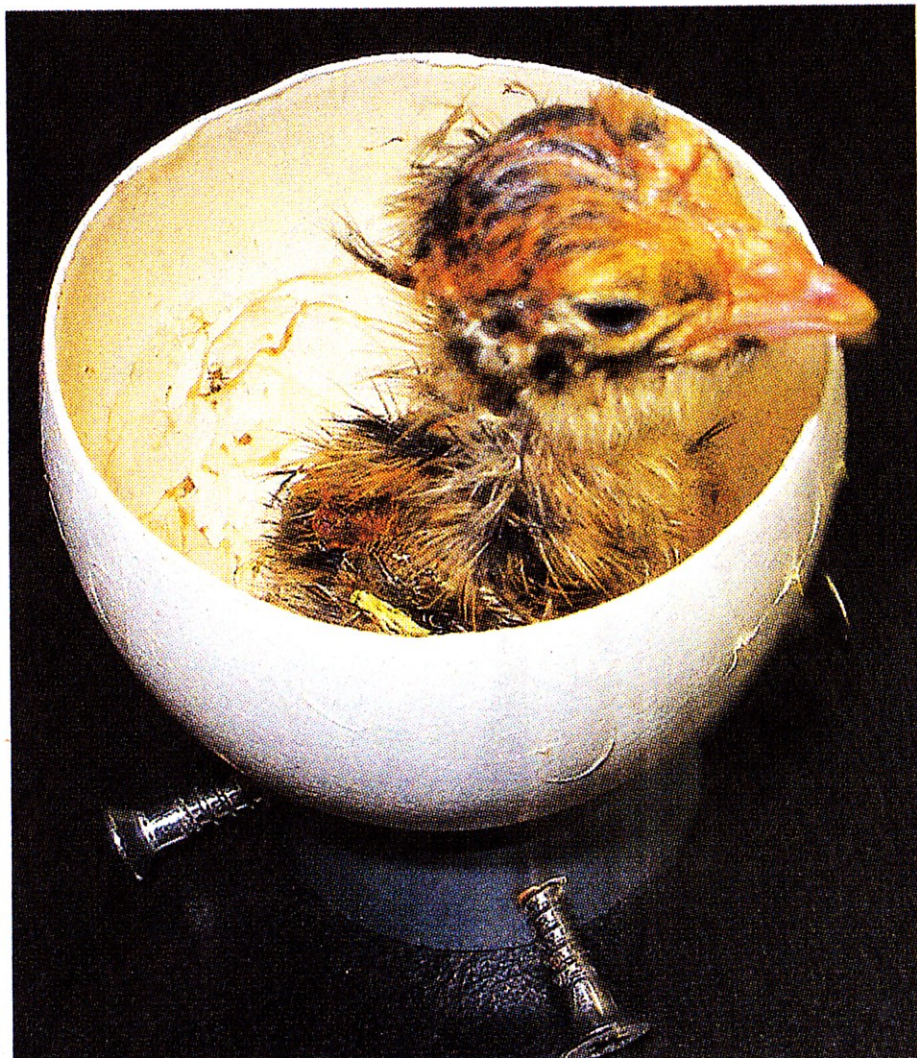
その後、卵殻形成部という場所で20時間くらいかけてカルシウムが豊富な卵殻が付着して、堅い卵殻に覆われた種卵が体外に出てきます。家禽(かきん)ではこれがほとんど毎日起こっています。この種卵は温めることにより、母親の体外で成長します。酸素および水分を除き、全て卵の成分により、その栄養をまかなっています。ヒヨコの体内カルシウムのうち、80%が卵殻由来で、残りの20%が卵黄由来です。

このように、卵殻は内部を保護するだけでなく、栄養的に主要なカルシウム源となっています。卵殻の内部で

栄養十分、ゆりかごにも

信州大学農学部教授

小野珠乙氏



ニワトリの卵殻から孵化(ふか)したウズラのヒヨコ

発生をするウズラやニワトリの胚を取り出して、外部から遺伝子や細胞などを導入したり、外科的手術をしてから、さらに育ててヒヨコにした場合があまりありません。この時、カルシウム源のない培養器で育てると、骨の形成が不十分となり、ヒヨコになりません。そこで、ウズラで発生胚をいったん取り出してから、Sサイズのニワトリの卵殻に入れて培養してみたらヒヨコになりました。カルシウムも充分卵殻から吸収していました。なぜ、ニワトリの卵殻か? というと、移し入れたり、ゆりかごのように揺らしたりするためにはどうして殻か? というところ、移し入れたり、ゆりかごのように揺らしたりする必要がある。鳥類最大のデータは、ヒヨコにするのが電話058(293)2870。メールアドレスはn-kawasima@ipc.u-u.ac.jp



◇ 寄稿文、国際鳥類内分泌学シンポジウムに関する質問、問い合わせは、ISAE2012岐阜・企画運営委員の川島光夫・岐阜大学応用生物科学部教授、電話058(293)2870。メールアドレスはn-kawasima@ipc.u-u.ac.jp